

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	吃音		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期	前期	教室名	
担当教員	圓越 広嗣					
実務経験とその関連資格	<p>言語聴覚士として回復期病院(デイケア・訪問リハビリ併設)、急性期病院で脳血管疾患リハを中心に9年勤務。その後、慢性期病院・外来リハで失語症、高次脳機能障害、運動障害性構音障害、摂食嚥下障害、認知症、吃音のリハビリに10年間従事。現在は急性期・回復期病院で勤務。</p> <p>吃音臨床は2009年から14年間携わっており、吃音間接法にて300例以上担当している。日本言語聴覚士協会、日本吃音・流暢性障害学会会員。2015年日本吃音・流暢性障害学会実行委員。2015年大阪府言語聴覚学会、2016年日本リハビリテーション医学会、2018年日本言語聴覚学会で症例発表を行った。また、RASS吃音研究会の運営にも携わっている。</p>					
《授業科目における学習内容》						
吃音についての基礎的知識を理解し、対応方法や訓練方法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
建帛社「改訂吃音」都筑澄夫 編著 三輪出版「間接法による吃音訓練 自然で無意識な発話への遡及的アプローチ」都筑澄夫 編著						
《授業外における学習方法》						
テキストや配布資料を読み、予習・復習をしておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
吃音は、表面に出ている症状だけでなくその背後にある症状も理解し、心理的側面を考慮しながら対応する必要があります。吃音者特有の価値観・考え方や吃音悪化要因を理解し、効果的な対応や訓練ができるように、事例を交えて伝えていきたいと思ひます。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	吃音症状と当事者の苦悩について理解できる		プロジェクター		
	各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク				
第2回	授業を通じての到達目標	吃音の種類、発生率、自然治癒率、原因論について説明できる		プロジェクター スピーカー	(予習課題)「改訂吃音」 p8～17	
	各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク				
第3回	授業を通じての到達目標	吃音症状、進展段階、吃音悪化要因の説明ができる		プロジェクター スピーカー	(予習課題)「改訂吃音」 p18表2-4、p83図4-3、p94 表4-4、「間接法」p2～27	
	各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義と、症状の動画視聴				
第4回	授業を通じての到達目標	直接法について説明ができる		プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」 p36～42、p63～73	
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク				
第5回	授業を通じての到達目標	RASS(自然で無意識な発話への遡及的アプローチ)の説明ができる		プロジェクター	(予習課題)「間接法」p30 ～56	
	各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	環境調整法の説明ができる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
	各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク		
第7回	授業を通じての到達目標	吃音質問紙の情報を分析できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第8回	授業を通じての到達目標	小児の症例を通じて、環境調整法の実際の流れを説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第9回	授業を通じての到達目標	環境調整法による指導ができる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第10回	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の目的が説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p78～121、「間接法」p90～103
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第11回	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の導入について説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p78～121、「間接法」p90～103
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第12回	授業を通じての到達目標	成人の症例を通じて、メンタルリハーサル法の流れを説明できる	プロジェクター	(予習課題)「間接法」p144～164
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第13回	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の対立内容について説明・作成できる	プロジェクター	(予習課題)「間接法」p144～164
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第14回	授業を通じての到達目標	臨床の一連の流れを説明できる	プロジェクター	
	各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第15回	授業を通じての到達目標	症例からの様々な質問に対応できる	プロジェクター	
	各コマにおける授業予定	グループワークと講義		